

S/HTTP - Server 組み込みインタフェース仕様

1. 本書概要

S/HTTP - Server は別のソフトウェア（以降、外部プログラムと称します）への組み込みを容易に行う為に、一定のポリシーに基づいたインタフェース設計がされています。

本書では S/HTTP - Server を外部プログラムに組み込む為のインタフェース仕様について解説します。

2. HTTP サーバ処理の開始手順

htserver.exe を CreateProcess で実行することで HTTP サーバ処理を開始します。

htserver.exe には以下のコマンドライン引数を指定します。

(コマンドライン書式)

(格納ディレクトリ)¥htserver.exe	htserver.conf の格納パス (フルパス)
	停止ロックファイル (フルパス)

2.1.htserver.conf の格納パス

このオプションには文字通り S/HTTP - Server の動作定義ファイルパスを指定します。

2.2.停止ロックファイル

このオプションに指定するファイルは CreateProcess を行う前に CreateFile で非共有モード（削除不可能なモード）でロックファイルを生成します。

htserver.exe コマンドは実行中に停止ロックファイルの削除を試みて、削除が成功した時に処理を停止します。

3. HTTP サーバ処理の停止手順

htserver.exe を CreateProcess する前に指定した停止ロックファイルのロックを解除すれば停止されます。

TerminateProcess で強制停止させることもできますが、異常（停止タイムアウトなど）時以外には利用しない方が無難です。

4. ログインタフェース

S/HTTP - Server の動作状況は基本的に標準出力に出力されます。

CreateProcess する時に名前なしパイプなどで取得してログ出力するのが一番効率的です。

5. 一般的な組み込み処理シーケンス (概要)

